



輸血のおはなし-2

輸血とは？

輸血をする場合、通常は本人と同じ血液型を輸血することに決まっています。しかし、同じ血液型の血液が無い場合や血液型がわからない場合は違う血液型の輸血をする緊急時の対応が必要です。どの血液型がどの血液型に輸血できるかというと、A型はA型とAB型に輸血でき、B型はB型とAB型に、AB型は同じAB型に、O型はすべての血液型に輸血できます。TV番組の「ER：緊急救命室」ではご存知のとおり緊急輸血の際にはすぐ「O型Rh(-)」を使います。

何故かというO型の血液には抗原が付いていないからです。Rh式血液型も赤血球の膜に付いた抗原によって分類され、D抗原を持っていないのがRh(-)です。アメリカではO型が45%、そのうち17%がRh(-)の血液型です。日本ではRh(-)の割合は、200人に1人くらいなので、輸血を受ける方の血液型がわからない緊急時には「O型Rh(+)」を使用します。そこで緊急時に使用することが出来るO型はどうしても慢性的に血液不足になるようです。

輸血ができる血液型の組み合わせ

		血液をもらう人 (受血者)			
		A型	B型	O型	AB型
血液を与える人 (供血者)	A型	○	×	×	○
	B型	×	○	×	○
	O型	○	○	○	○
	AB型	×	×	×	○